

メリーランド大学図書館提供  
Gordon W. Prange Collection,  
University of Maryland Libraries



## プランゲ文庫収集事業の現状

### ーメリーランド大学のメディア変換作業を中心にー

日本が占領下にあった間、昭和二〇（一九四五）年から二四（一九四九）年まで、日本で刊行されていたすべての出版物は、占領軍の検閲を受けていました。プランゲ文庫は、占領軍の歴史部門に修史官として勤務した米  
国メリーランド大学歴史学教授のプランゲ（Gordon W.

Prange）（上写真）が、検閲のために納められた出版物の価値に注目し、検閲終了後にメリーランド大学に移管させたものです。占領軍による検閲は高校の校内新聞のようなミニコミ紙・誌にまで及んだため、プランゲ文庫には、現在、日本国内には全く残っていない出版物（図書、雑誌、新聞・通信等）が数多く残され

ています。また、占領軍による検閲の箇所を示す文書も一緒に残されています。これらの点で占領下の日本と占領軍による検閲の実態を知るために不可欠な、貴重な資料であるということができます。

国立国会図書館は、米国立公文書館等で所蔵する日本占領関係資料群をマイクロフィルムに撮影し、収集する事業に一九七八年から取り組んでいます。プランゲ文庫についてもその重要性に着目し、一九九〇年代前半にメリーランド大学と共同で同文庫の雑誌のマイクロフィルム化による収集事業を行いました。その後、同大学は、独自に新聞・通信のマイクロフィルム化事業を行い、当館ではその成果のマイクロフィルム



検閲資料の一部

を入手しました。雑誌および新聞・通信のマイクロフィルムは、現在東京本館憲政資料室で利用に供しています。残る図書については、平成一七（二〇〇五）年に再び当館と同大学との間でマイクロフィルム化による収集のための共同事業を立ち上げました。この共同事業では、第一段階として、すでに整理の済んでいた児童書のマイクロフィルム化を行い、その後一般書のマイクロフィルム化を行う計画です。

占領期は納本制度が確立していなかったため、国内では散逸した出版物が少なくありません。当館の所蔵図書とプランゲ文庫の図書を比べたものが下のグラフです。プランゲ文庫が当館の蔵書の欠落部分を補うものであることがご理解いただけると思います。

児童書のマイクロフィルム化事業は、平成一七年度中に実際の作業を開始し、平成一八年一〇月から国際子ども図書館でのマイクロフィルムの利用提供を開始しています。この児童書の事業については、収集する児童書の稀少性はもちろんですが、デジタル画像からカラーのマイクロフィルムを作製していることも注目していただきたい点です。そこで、今回の特集では、児童書マイクロフィルム化事業の実際の作業工程についても詳しくお伝えいたします。

（主題情報部政治史料課）

国内刊行図書 出版点数と国立国会図書館所蔵点数（1945-1955）

